参考資料

ベスト シーニックバイウェイズ プロジェクト2024 応募プロジェクト一覧

ベスプロ2023 最優秀賞

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

～サスティナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施～

◆景観診断をもとにマスタープランを作成

年度	景観再診断	景観改善の実施				フォローアップ調査
		弟子屈	阿寒湖	中標津	釧路湿原	
H30	弟子屈エリア	2箇所	診断前	診断前	診断前	全箇所実施
R01	阿寒湖エリア	9箇所		診断前	診断前	全箇所実施
R02	※COVID-19で延期			診断前	診断前	全箇所実施
R03			2箇所	診断前	診断前	全箇所実施
R04	中標津エリア	1箇所		2箇所	診断前	全箇所実施
R05	釧路湿原エリア			2箇所		全箇所実施
	新しい「ルート景観づくりマスタープラン」が完成					

◆マスタープランによる計画的な景観改善

廃看板の撤去
（阿寒湖エリア）

カラー舗装の改善
（弟子屈エリア）

案内標識の交換
（中標津エリア）

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	～地域のシンボル〈羊蹄山〉の眺望を守る・整える・育む～ 学官地域連携によるビューポイント魅力アッププロジェクト	エントリー部門	美しい景観づくり
ルート名称	支笏洞爺ニセコルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

・地域団体と道路管理者が協働で魅力ある道路景観の保持・改善を推進する「秀逸な道」区間に設置されているビューポイントパーキングにおいて、優れた「眺望」を楽しんでもらうための「視点場」の魅力度向上に向けた検討や試行を実施し、ビューポイントパーキングでの滞在時間の増加や快適性の向上、利用シーンの多様化を目指す。

・北海道科学大学と地域の団体・道路管理者等が連携し、ベンチや花壇、案内看板等のビューポイントパーキング付属施設について、デザイン検討・製作等を行う。

●活動内容：①ビューポイントパーキングの**維持管理活動**(草刈・清掃等)：毎年６～８月

②**現地看板の設置**による**地域情報の提供と効果検証**：毎年６～10月

③**道路空間を利用したオープンカフェ**　※道路協力団体制度の活用：毎年5～10月

④**「秀逸な道」カード**による**現地来訪＆周遊促進**に向けた試行：R5年度～

⑤「秀逸な道」を対象とした**現地ヒアリング・景観診断調査**：毎年6月,9月

⑥**北海道科学大学との連携**による**ビューポイントの魅力アップ検討と試行**：R6年度～

●活動期間：令和2年度(2020)～令和6年度(2024) **※継続・拡大展開中**

●実施場所：ニセコ羊蹄エリア：「秀逸な道」区間（VPP３箇所）
(倶知安町八幡、京極町更進、喜茂別町相川の各VPP)

②活動の体制　学官地域連携スキーム

・シーニックバイウェイ北海道　支笏洞爺ニセコルート(地域活動団体)
・北海道科学大学　(工学部建築学科/未来デザイン学部)
・国土交通省　北海道開発局　小樽開発建設部
・(一社)北海道開発技術センター

※プロジェクトの推進にあたり、
ルート(地域活動団体)・北海道科学大学・小樽開建・decの
四者間において随時、情報共有を図ることとする。

③ＰＲポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

・2017年(H29)の〈電線見えない化〉の継続・発展系として、PDCAサイクルによる**ビジョンの明確化**、**プロセスの共有を徹底**し、継続的な魅力アップに寄与している。

【活動による効果】

・SNS利用者に**「秀逸な道」カード**が投稿され、**現地来訪・周遊促進に寄与**している。

・このプロジェクトを担う**地域活動団体(喜茂別・京極・倶知安)**が3年連続で**「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞**し、活動継続のモチベーション向上に繋がった。

・**学生**には、**ビューポイントでアイディアを形にできる貴重な機会**となり、**地域活動団体や行政**には、**若い世代にシーニック活動を知ってもらう機会の創出**に繋がる。

ビューポイント魅力アップに向けた具体例

美しい景観づくりの継続的・拡大展開に向けたPDCAサイクル

「秀逸な道」
カード(3種類)

Action
- ●看板設置・効果検証
- ●「秀逸な道」カード（VPP:3箇所）
- ●意見交換会
- ●ワークショップ

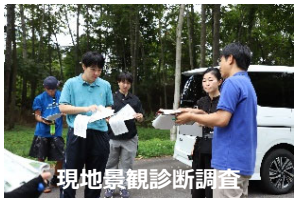
Plan
- ●推進プラン作成・見直し
- ●実施メニューの検討

Check

- ●現地ヒアリング調査
- ●「秀逸な道」景観診断調査

Do
- ●道路空間の維持管理（草刈・清掃等）
- ●移動販売車オープンカフェ等による収益活動

※道路協力団体制度の活用



様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	～地元自治体とも連携した景観資源の磨きあげ～ R243シラカバ並木の清掃・剪定活動	エントリー部門	美しい景観づくり
ルート名称	東オホーツクシーニックバイウェイ		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

＊R243「秀逸な道」区間の主要な景観資源となっている「シラカバ並木」の清掃活動や、樹木の剪定活動によって、シラカバ並木の景観的価値の向上・磨き上げを目的とした取組み。

＊清掃活動による美観の向上や、シラカバの整枝剪定・シラカバ以外の樹木の伐採等によって、並木の連続性を際立たせて、道路から見たシラカバ並木の景観的な印象も高める。

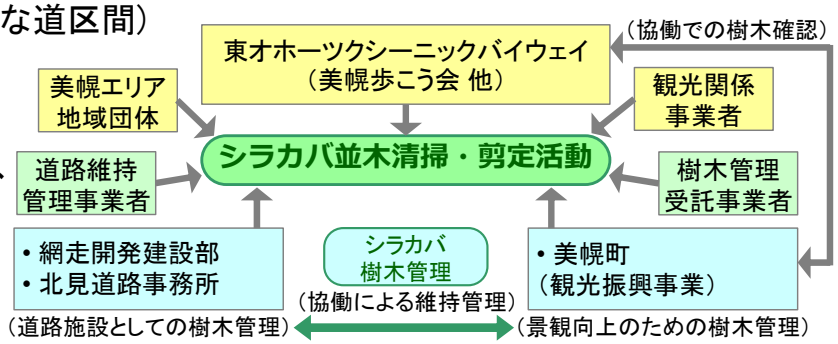
●活動内容：シラカバ並木区間の樹木について、開発局では道路施設としての維持管理、地元の美幌町では景観向上のための維持管理、と協働による維持管理を行っている。地域活動団体は維持管理の現地確認等に参画するとともに、並木区間の清掃活動や樹木の剪定・伐採活動等を実施。

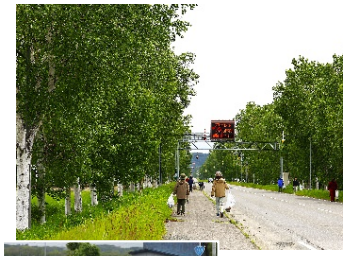
●活動期間：令和3(2021)年度～令和6(2024)年度　※継続活動中

＊実施場所：国道243号美幌町区間(秀逸な道区間)

②活動の体制

＊東オホーツクシーニックバイウェイ（美幌歩こう会 他）、網走開発建設部、美幌町、観光関係団体、道路維持関係事業者など、約30人が参加。





▲道路景観を美しく見せるための清掃活動

▲並木景観をすっきりと見せるための剪定活動

③ＰＲポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

＊約16kmのシラカバ並木区間に対し、活動範囲を3区間設定して毎年1区間毎に活動する計画として、参加者が無理なく実施できるよう配慮。

＊美幌町と連携した樹木維持管理の方針は、町の担当者とも十分調整しながら立案し、町では観光振興事業として剪定作業を実施。

【活動による効果】

＊取組みの内容が地元新聞にも掲載され「秀逸な道」の認知度向上にも寄与。

＊活動の成果もあり、令和6年度に「秀逸な道」選定区間に認定され、今後も景観資源の磨き上げに取り組んでいく、大きなモチベーションとなった。

▲参加者の負担軽減も考慮した計画的な活動の実施

▲美幌町役場と連携した現地確認

▲美幌町独自予算でも剪定を実施

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	シーニックバイウェイの広域連携をベースとした地域連携DMOの設立	エントリー部門	活力ある地域づくり
		ルート名称	宗谷シーニックバイウェイ

①活動概要

●活動の目的・目標

平成14年をピークに観光客の減少が続いていた北宗谷では、問題解決のためには商圏内の連携による取り組みが必要であった。そこで、これまで無かった新たな連携の仕組みとして「シーニックバイウェイ制度」を導入し、ルート運営の基本である「観光空間づくり」を軸に据え、「地域づくり」や「美しい景観づくり」と連動させながら、観光の再生を目指した。

●活動内容：

平成17年～　広域連携の基礎づくり

これまで一度も実施されていなかった**ルート内の「観光協会長サミット（民間）」を開催**し、地域共通の課題を抽出するとともに、連携した取り組みを開始した。さらに、シーニックバイウェイ観光分科会を母体として、事業を展開するための**「北宗谷広域観光推進協議会」を設立**。首都圏や中部圏に向けた**トップセールスや合同キャンペーンを実施**し、**観光案内所間での情報交換**および情報発信も行った。

第1回観光協会長サミット
平成17年2月25日開催

平成26～28年　連携の強化・拡大

新たな取り組みとして、インバウンドに関する勉強会を実施したほか、**観光に関心を持つ若手を中心としたワークショップ「しゃべり場」**を、宗谷エリアの今後の観光を考える場として各地で開催した。さらに、先進事例から学ぶため、**スイスを視察**し、アドベンチャートラベル（AT）、スイスモビリティ（サイクルツーリズム）、DMOの取り組みについて学習した。

しゃべり場 in 礼文
平成27年5月1日開催

スイスへの視察
平成27年10月

令和元年～　DMO登録

北宗谷広域観光推進協議会を解散し、地域連携DMOの設立に向けて、宗谷シーニックバイウェイで培ったノウハウを活かしながら準備を進めた。ナショナルサイクルルートの指定に向けた取り組みの一環として、**先進地である熊野古道を視察**し、また台湾のサイクリストとのコミュニティづくりにも着手。こうした取り組みを経て**候補法人期間を終え、令和6年3月に正式登録**を果たし、持続的な観光地形成に向けた新たな一歩を踏み出した。

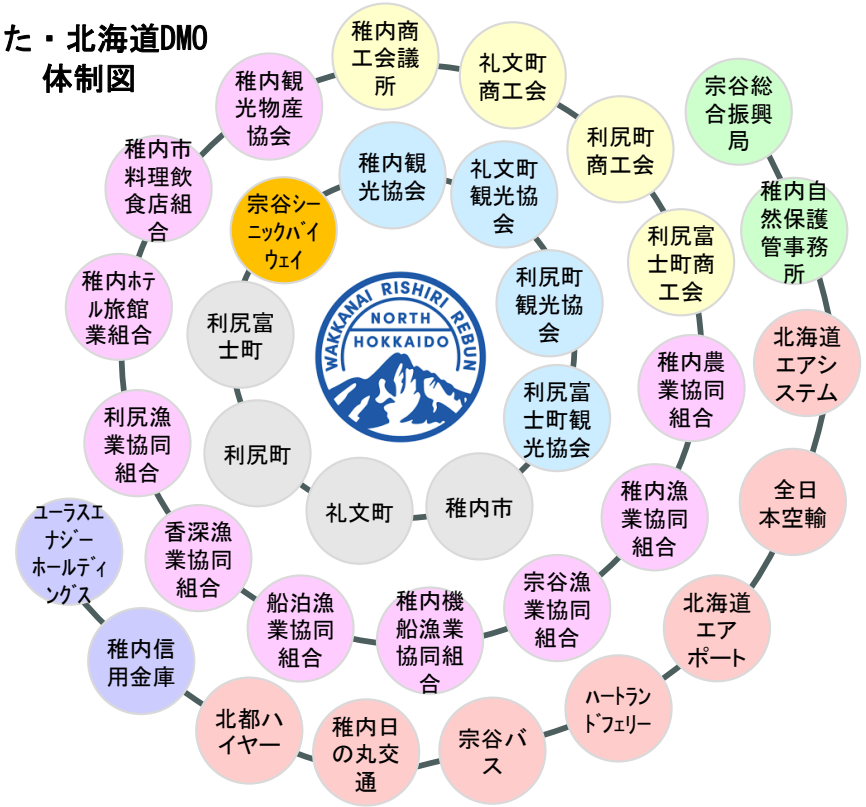
熊野ﾂｰﾘｽﾞﾑﾋﾞｭｰﾛｰへの視察
令和4年11月

設立記念シンポジウムの開催
令和6年6月9日開催

●活動期間：平成17年度～

②活動の体制

きた・北海道DMO 体制図



③PRポイント

活動当初は各エリアでお客さんを奪い合う意識もあり、なかなか「広域連携」自体の意識が定着しなかったが、観光協会長サミットを中心に、地道な活動を2007年から20年にわたり展開してきた。
宗谷シーニックバイウェイがこれまでに積み上げてきた実績とノウハウを活かし、地域連携DMOの準備を進めることで、これまで築いてきた信頼関係を基盤に、DMOを中心とした広域連携の組織体を構築することができた。

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	地域の歴史を活かしたヒストリックバイウェイの活動	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の背景

- ルート設立より、双岳台(永山峠)や阿寒横断道路で清掃活動等を実施
- 人で繋がるシーニックバイウェイプロジェクト「永山在兼と2つのみち」
  ⇒永山在兼氏の偉業とともに、昭和初期の「永山峠標柱」の存在を認識
  ⇒永山氏の故郷(鹿児島県日置市)の薩摩よりみち風景街道の存在を認識

●活動の目的・目標

- 地域ならではの歴史に焦点をあてたヒストリックバイウェイの構築
  ⇒観光等での活用、地域の子どもたちへの教材としての活用
- ヒストリックバイウェイを通じた新たな人的ネットワーク構築

●具体的な取り組み

- 令和3年度～：懐かシーニックパネル展と連携した情報発信開始
- 平成5年度：永山在兼物語の完成⇒弟子屈町・日置市の教育機関へ配布
- 令和6年度：標柱再建、薩摩よりみち風景街道と姉妹ルート盟約締結

②活動の体制

- 活動体制(人的ネットワーク)の広がり、活動と成果(★印)は下図参照

③ＰＲポイント

【工夫した点や苦労した点】

●工夫した点①：ネットワークの構築と拡大

- 地域の歴史研究家、ご親族、薩摩よりみち風景街道との連携

●工夫した点②：活動効果の細やかな説明による理解向上とPR

- 環境省や自治体への説明を細目に行い、再建効果の理解を得る
  ⇒環境省による申請指導、自治体による補助金等の協力
- マスコミへの詳細説明による新聞や町民誌で紹介⇒認知率向上

昭和初期の
永山峠標柱
(弟子屈町提供)

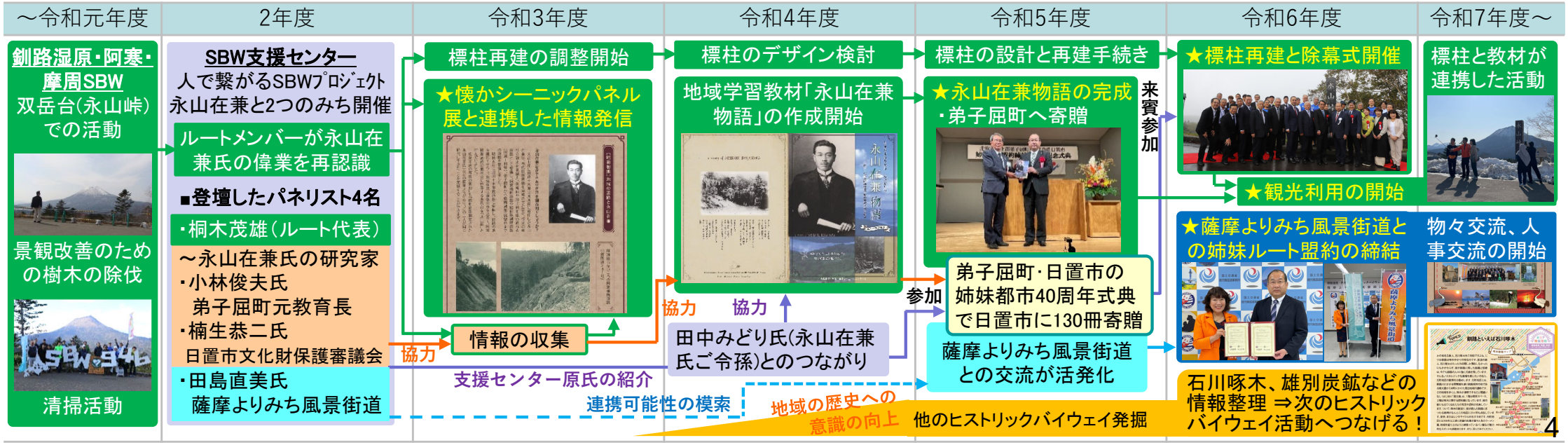
●苦労した点

- 国立公園内に標柱を建てること：多様な管理者との調整
- 標柱再建費用：自治体や関連団体との連携による補助金等
- 除幕式や盟約調印費用：自治体の姉妹都市事業とも連携

【活動による効果】

●永山峠標柱および説明板設置による双岳台の観光目的地化
●歴史整理による地域教材としての活用と観光事業での活用
●歴史が紡いだ地域間連携に基づく姉妹ルート盟約の締結
●次の地域歴史の発掘とヒストリックバイウェイ活動の継続

完成した永山峠標柱
と雄阿寒岳(双岳台)



様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	文化的・歴史的価値の再認識 心象風景・地域の象徴としての「灯台」利活用プロジェクト	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	函館・大沼・噴火湾ルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：
・ルート内には複数の灯台が点在しており、周辺が公園整備され地域関係者による活用協議会の活用実績や地域資源として一定の注目を集めている灯台が存在している。
・灯台そのものが持つ魅力や価値の伝達(地域性/過去～現在までのストーリー)

●活動内容：①**現地視察**「汐首岬灯台」「日浦岬灯台」(R2年度)
②**有識者から学ぶ**ルート関係者を対象とした**勉強会**（R2年度）
③灯台を中心とした**域内の周遊促進に向けた現地見学会**（R4年度）
④「**海と灯台学journal〈創刊準備号〉**（2025年3月発行）」への**寄稿**（R6年度）
※寄稿内容：汐首岬・日浦岬灯台のポテンシャル/灯台活用に向けた今後の活動展望

●活動期間：令和2年度(2020)～令和6年度(2024)　**※継続展開中**

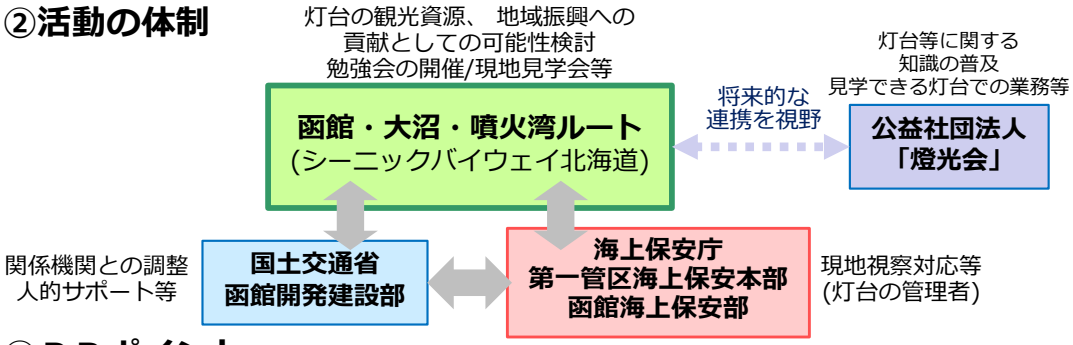
●実施場所：「函館・大沼・噴火湾ルート」内の沿岸灯台

ルート内の主な地域資源と点在する沿岸灯台

恵山岬灯台

日浦岬灯台

②活動の体制



葛登支岬灯台の
レンズ

灯台の現地視察の様子

「灯台勉強会」の様子

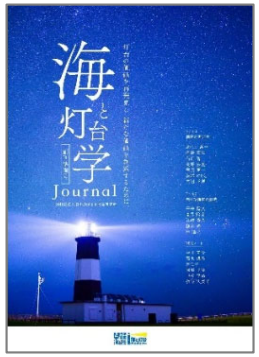
灯台を中心とした域内の周遊促進に向けた現地視察の様子

③ＰＲポイント

【総意工夫した点や苦労した点】
・**その場に行かなければ感じられない空間体験**(場所性／唯一性のある景観及び風景)・**得られない特別な体験の場**(灯台の演出)の創出に向けた検討・現地視察等の継続。
・現地視察及び意見交換会における有識者の招聘、海上保安庁及び灯台関係機関との連携。

【活動による効果】
・ルート内の「灯台」に着目し、現地視察及び意見交換会等を通じて、**心象風景・地域の象徴としての「灯台」の魅力・価値の再発見**につながった。
・「海と灯台学journal〈創刊準備号〉」への掲載をきっかけとして、全国の**「海と灯台プロジェクト」関係者との交流**を深めることができた。

【今後の展開方向】
・海上保安庁、燈光会などの灯台関係機関・団体との協力関係の構築。
・地域の関係者として、掃除や花植え等の周辺環境整備、訪問希望者への案内等を役割分担し、できることを積み重ねて将来的な公開につなげていく。



海と灯台学journal〈創刊準備号〉掲載記事（2025年3月発行）

様式 （★指定･候補ルート共通）

活動名称	みちをきっかけとした学生支援プロジェクト	エントリー部門	活力ある地域づくり賞
ルート名称	萌える天北オロロンルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の背景

- 学びの機会の空洞化（統廃校の進行・地域学習の縮退・学び手の流出）
  ―急激な少子高齢化により、留萌管内小中高校の統廃校が進行。
  ―児童・生徒減に伴い教諭数も減少。地域学習※1を開発・提供できるマンパワーも不足。
  ―R4年度より「ほっかいどう学」のサポートにより、地域学習が活性化。
  ―大学・専門学校は元々留萌管内に無く、高校卒後に管内から若者が流出。
- 課題先進地域※2である留萌地方への関心の高まり
  ―地方部の課題を学ぶフィールドとして、留萌管内は逆説的に“学習素材として最適”。

●活動の目的・目標

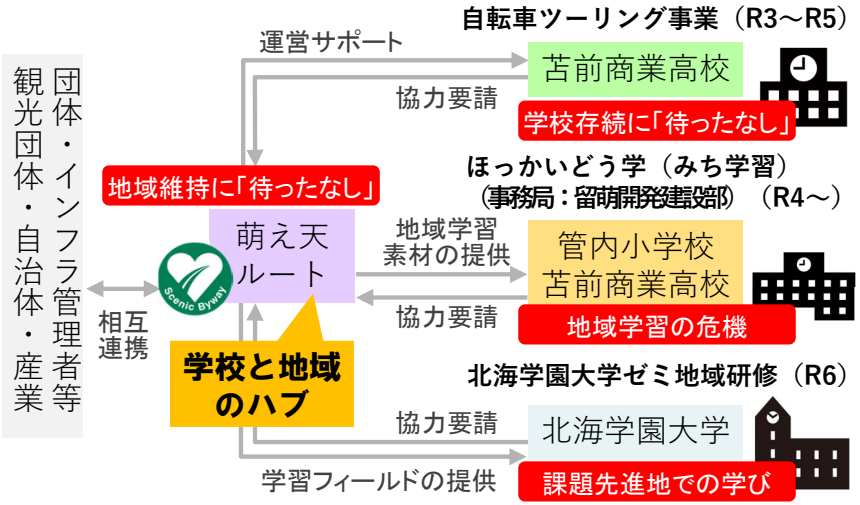
- 学校と協働で、地方部においても豊かな学びが享受できるための創意工夫の一助となる。
- フィールドワークの受入ハブとなることで、学生と留萌管内との関係人口の創出。

⇒留萌管内の学びの機会の空洞化を食い止め、地域活力を維持する！

●活動内容

- 小学校・高等学校・大学を対象とした、“みちをきっかけとした“地域学習の実践支援

②活動体制（年度は、各取組の活動年度）



③ＰＲポイント

活動	工夫点や苦労点	活動による効果（開発した教材や地域学習の実践等）				
自転車ツーリング事業	**工夫点：**将来の留萌の応援団をつくる投資として、生徒たちを全力で運営・ライドサポート **苦労点：**活動資金はクラファンで補填	生徒数増加による**学校存続**（R7入学者数：31名）	 サイクルラックづくり	 ライドサポート	 ライドサポート	 自転車ツーリング
ほっかいどう学（みち学習）	**工夫点：**教材づくりの素材収集にあたり、観光団体・漁協・交通事業者等との橋渡しとなり、質の高い素材を提供 **苦労点：**学校種別に応じた素材の吟味	高校：**観光教育**の実践 小学校：道の駅動画・管内デジタル副読本等の**地域学習教材づくり**	 小学校実践授業	 道の駅学習用動画	 観光資源の探索	 管内デジタル副読本
北海学園大学ゼミ地域研修	**工夫点：**フィールドワーク(FW)にあたり、観光団体・自治体・道路/ダム管理者等のハブとなり、研修をサポート **苦労点：**事前調査から緊密な連絡調整	FWの実施(経済学ゼミ生12名)及び管内PR動画の作成による**観光教育**※3の実践	 道の駅るもいレク	 地域ルート試走	 留萌ダム見学	 学園大ゼミ合宿

※1 地域の特色・特性を題材に学習内容を再構成し、深い学びを得ることを目的とした学習　／　※2 道内人口減少率2位（R6現在）
※3 次代を担う若者たちの地域への愛着・誇りを醸成し、観光の意義理解を深めることで、観光立国を支える人材の裾野を拡げる取組（引用：観光庁）

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	松浦武四郎を学び発信し交流することでの地域活性化	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	天塩川シーニックバイウェイ		

①活動概要（目的）

かつて天塩川流域を巡った**探検家・松浦武四郎**は、「北海道命名の地」として知られる音威子府村をはじめ、**天塩川にゆかりを持つ**人物である。地域には武四郎の足跡を示す看板等が設置されているが、学校などで詳しく取り上げられることは少なく、**知名度は限定的**である。本活動は、武四郎の功績を**広く地域に伝える**とともに、これまでにおこなってきた地域活動の中に武四郎の活動も交えることで、**天塩川流域の歴史理解と関心を深める**ことを目的として始動した。また、米国等のヒストリックバイウェイも参考にしながら、地域資源の再発見と活用を目指している。

【活動内容】
- 勉強会、市民講座（専門家による講演）
- 三重県松阪市（武四郎の故郷）との交流

【主な取り組み】
2024年2月：松阪市「武四郎まつり」に初参加し、道外交流を開始
2024年12月：名寄市市史編纂室・鈴木氏を講師に関係者向け勉強会を実施
2025年2月：「武四郎まつり」に再参加し、記念館館長の来道を依頼
2025年3月：国立アイヌ民族博物館・田村氏によるアイヌ文化を交えた市民講座を初開催

②活動の体制

主体：天塩川SBW

協力機関：
・名寄市市史編纂室
（地域史に関する知見提供）
・三重県松坂市 松浦武四郎記念館
（武四郎に関する情報共有）
・国立アイヌ民族博物館
（アイヌ文化の専門的知見の提供）

天塩川SBWが中心となり、各専門機関に協力を依頼。各機関は天塩川SBWや市民・住民に対し、講師派遣や資料提供などを通じて情報支援を行っている。

③PRポイント

市民向け講座の開催（情報発信・共有）

- 知識の向上
- 天塩川の歴史の理解と関心

勉強会で得た知識が
質の高い市民講座をつくる

SBWでの勉強会

- 地域への還元
- 共感・理解の拡大
- 地域への定着
- 活動へのモチベーション向上

市民・住民からの共感が
活動の継続と発展を後押しする

武四郎まつりへの参加（対外交流・PR）

※地元テレビでも特集された

- 新たな知見の吸収
- 新たな繋がりの創出
- 外部（道外）からの認知度向上

対外的な交流が
新たなアイデアや協力者をつくる

好循環を目指す

今後の展望

■ 地域の歴史としての定着
▽
流域市町村とも連携

■ より深く知ることのできる体験等の創出
▽
体験会やツアーの開催

■ 学校教育への浸透
▽
学校のバス学習や授業への導入

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	＼空知管内全24自治体の連携プロジェクト／ そらち「道の駅」×「シーニックバイウェイ」 スタンプラリーソラ★スタ	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

空知の活性化を目指し『そらち「道の駅」ネットワーク会議』と『空知シーニックバイウェイ』が共催し、札幌圏からの誘客及び空知管内の周遊を促進するスタンプラリーを企画・開催。空知シーニックバイウェイでは、空知管内全24市町を繋ぐため、道の駅が無い自治体と連携（個別ミーティング等を重ね）し、道の駅空白地域に空知SBW関連施設（スタンプラリー箇所）を設置。少しづつ参加施設を増やし、令和7年に全24市町での開催が決定。

【活動期間】：令和3年度～令和6年度　※令和7年度継続実施中

- **●道の駅と空知SBWが連携し、空知管内24市町全体の活性化を目指す**
  - ・道の駅（13市町）＋シーニック関連施設（11市町）
  - ⇒ 応募条件：**全箇所でのスタンプ捺印**とアンケート回答　**空知の市町を周遊！**
- **●持続可能な運営体制の構築**
  - ・協賛・広告募集の他、道の駅＆SBW参加施設の負担金（各2万円）で運営
  - ⇒参加施設の増加により**全体予算がUP！ R7にはデジタルスタンプラリーも併用**
- **●道の駅・行政・民間の有益な情報交流の場づくり**
  - ・ソラ★スタをきっかけに、道の駅・自治体・シーニックの交流が活性化

②活動の体制

そらち道の駅ネットワーク会議
【13駅＋13自治体】
◆各道の駅が連携し、空知地域の道の駅活性化を目指す

スタンプラリー：継続 ⇔ **連携** ⇔ スタンプラリー：新規

空知シーニックバイウェイ
【11関連施設＋11自治体】
◆自治体と連携し、道の駅空白地帯に空知SBWにて関連施設を設置

道の駅×シーニックバイウェイ連携事業「ソラ★スタ（スタンプラリー）」
⇒24自治体の連携が実現！！空知全体のさらなる発展と活性化を目指す

③ＰＲポイント

【総意工夫した点や苦労した点】
- ・無謀と思われた24市町を繋ぐ連携プロジェクトを各市町と個別ミーティングを重ね段階的に進めることで、**4年かかったが全市町での開催**が実現。
- ・特に、参加負担金（2万円）＋協賛品（２万円分）を理解いただくのに苦労したが、結果として**新たなチャレンジも含め持続可能な運営体制が構築**できた。

【活動による効果】
- ・ソラ★スタをきっかけに、各自治体担当者と景観・地域資源を共有、**普段から連絡を取り合える関係性が構築**された。
- ・令和6年度は**1,485名が全22施設を完走**。**空知地域へ経済効果は約30,056,400円**

※完走者アンケート： 1施設当たりの平均消費額920円 × 22施設 ＝ 18,400円／人より算出。

ソラ★スタ企画＆検討

▲空知シーニックバイウェイルート運営会議

当年度の情報共有＆次年度企画

▲そらち「道の駅」ネットワーク会議

自治体との個別ミーティング

ソラ★スタのスタンプ施設の候補となる観光拠点を相談
景観・地域資源も共有

ソラ★スタの開催

▲ソラ★スタ2024スタンプラリー帳 A3両面・カラー
（右上：シーニック関連10施設、右下：道の駅12施設）

R6新規参加の空知SBW施設(5市町)

各施設との調整

- ・負担金＆協賛品調整
- ・掲載情報の調整
- ・スタンプの準備等

▲上砂川町：上砂川岳温泉パンケの湯

▲美唄市：ゴルフ5カントリー美唄コース/美唄スノーランド

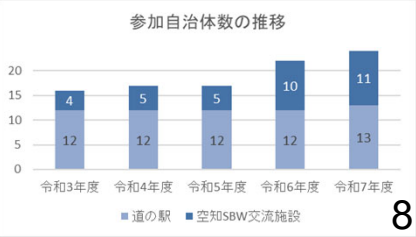
▲栗山町：栗山煉瓦創庫くりふと

▲沼田町：ほろしん温泉ほたる館、まちなかほっとタウン

▲妹背牛町：妹背牛温泉ペペル

次年度の企画に向けた検証（アンケート）

- ●全参加者のうち、**空知管内が32%と一番多く**、続いて札幌市30%、石狩管内12%
  ⇒**空知地域及び隣接地域の人々が周遊に効果有**
- ●スランプラリーの参加期間：１～3日が13%、4～10日が51%、11日以上が29%、記載無し７%⇒**空知地域の滞在に効果有**
- ● **1施設あたりの平均消費額**：１～500円24%、**501円～1000円38%**、1,001円～3,000円25%、3001円～5,000円２%、5,001円～10,000円１%、0円8%、記載無し２%
  ⇒**空知地域への直接的な経済効果有**
- ●スタンプラリーの希望媒体は**紙が84%**、デジタルが15%⇒**紙媒体は継続、デジタルはチャレンジとして併用を試行**



様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	～眺望景観の向上、交通障害の解消、そしてヒグマも…～ R334オオイタドリ刈る狩る作戦	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	東オホーツクシーニックバイウェイ		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

＊斜里町ウトロのR334「秀逸な道」区間で、沿道のオオイタドリが繁茂して、ドライブ景観の阻害、自転車などの通行の支障、そしてヒグマの姿が視認しにくい等の問題が生じているため、地元の皆さんと協働でオオイタドリの刈り払いを行い、繁茂を抑える取組み。

●活動内容：

＊地域の活動団体や地元事業者らのボランティアが連携して、知床を訪れる観光客や来訪者の皆さんに「ようこそウトロへ！」の意味を込めて、ウトロ地区のゲートウェイとなっている「カメ岩」がしっかりと見えるように、約2km程の法面区間の伐採を行う。

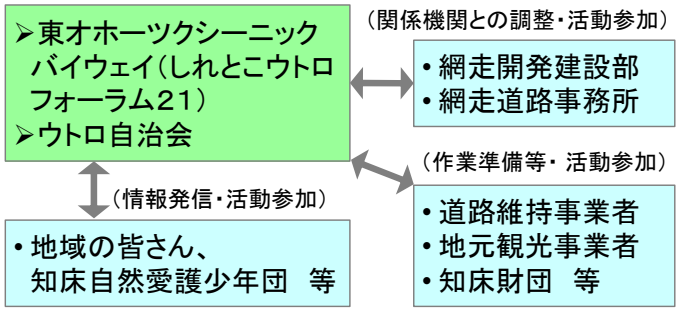
●活動期間：令和元(2019)年度～令和6(2024)年度　※継続活動中

＊実施場所：国道334号斜里町ウトロ区間(秀逸な道区間)

令和元(2019)年度から始めた取組みは、多くの皆さんの参加・協力をいただき継続中！

②活動の体制

＊東オホーツクシーニックバイウェイ(しれとこウトロフォーラム21)、ウトロ自治会、知床自然愛護少年団、地元観光事業者、知床財団、網走開発建設部、道路維持事業者など、約50人が参加(R6.6)。



③ＰＲポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

＊限られたマンパワーで効率的に伐採できるよう、知床ウトロへの入口となる、象徴的なカメ岩への眺望区間を伐採箇所に設定して実施。

＊地元の方々にも取組みを身近に感じてもらえるよう、新聞折込チラシで開催日程や取組みの狙いを周知。

【活動による効果】

＊知床地域特有のヒグマ問題との関連を明示することで、景観の向上のみならず、ヒグマ問題に取り組む知床財団や地元の観光事業者らの参画も得られている。

地元の少年団も参加

海岸線への眺望も確保

＜新聞折込チラシでの周知＞
イタドリの伐採による、景観の向上やヒグマとの遭遇リスクの低減等、取組みの意図も併せて周知

様式1 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	ひがし北海道「より道」トクするQR	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ		

①活動概要

- ●背　　景：道の駅利用者が弟子屈町内の施設を利用せず通過してしまう
  てしかが情報掲示板（アナログ）では情報量に限りがある
  多くの地域施設（特に個人店）が外国語に対応できていない
- ●活動目的：デジタルによる地域施設の利用促進
- ●活動内容：地域施設への参画の打診
  情報収集と情報の掲載、英語翻訳、チラシの配布
- ●活動期間：令和4年度～継続中
- ●活動場所：釧路市、弟子屈町、中標津町、白糠町、鶴居村の各施設
- ●施 設 数 ：53施設（配布のみの施設を含む）

最大27施設まで

図　てしかが情報掲示板

②活動の体制

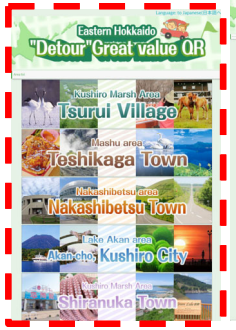
③ＰＲポイント

- ●エリア拡大　：道の駅しらぬか恋問館のリニューアルに併せて白糠町を追加
- ●利便性の向上：情報提供のスペースに限りがなく、Webページにて無限に増加可能
  外国語への対応が困難な地域施設の情報を英語で提供
  スマホの機能により各国の母国語へ自動翻訳でき英語以外も提供可能
- ●情報の鮮度　：情報を即時に修正可能
- ●アナログとデジタルの共存：既存のてしかが情報掲示板も残す
- ●**道の駅第3ステージ：道の駅×日本風景街道の連携強化を促進**

即時に修正可能

無限に増加可能

図　しらぬか恋問館リニューアルオープン



英語版

図　より道トクするQR　Web画面

英語版

図　英語版チラシ

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	札幌シーニックバイウェイ 魅力発掘・情報発信プロジェクト	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	札幌シーニックバイウェイ　藻岩山麓・定山渓ルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：地域団体と大学生が協力して、地域の魅力を「人の姿」や「声」とも に伝える取り組みを進めている。世代や立場を越えた関わりの中で、“顔の見える観光空間”を育てていくことを目指し、紙マップと動画を連動させた情報発信に挑戦。18の構成団体の話を聞き動画を編集し、マップと繋ぐことで、見る人が地域とつながることを目指す。こうした活動を支えるのは、参加者が定期的に集まり、学び合いながら進めてきた事業の積み重ねであり、関係を築きながら続けていく体制そのものが、活動の大きな土台になっている。

●活動内容：
▼令和5年度
・地域資源や団体の活動調査を行い、紙マップを制作
・紙媒体での情報発信に加えて、Webサイトや SNS等での展開を検討

▼令和6年度
・「顔の見える」動画の作成
・継続的な事業の実施（週１回）
・QRコードの掲載による紙マップと動画の連動

●活動期間：令和5年度～令和6年度
●活動エリア：札幌市南区全域

▲制作した札幌SBWマップ

②活動の体制　南区多世代共創モデル

・石山大学（65歳以上の男性で構成される地域活動団体）
・札幌市立大学美術部（次世代を担う10代・20代）
・札幌シーニックバイウェイ活動団体（南区内41に及ぶ多様な活動主体）

③ＰＲポイント

・紙×動画を連携させた“ハイブリッド型”情報発信
⇒紙媒体だけでは届かないリアルで立体的な地域像が発信可能になった。

・地域団体×学生による共創の仕組み
⇒世代・専門・立場を超えたチームとして主体的にコンテンツを作成した。

【活動による効果】

・学生が地域のリアルな活動に触れて貢献・共感する経験が生まれ、**新たな担い手づくり創出の場**になった。
・地域の活動団体にとっても、**自分たちの活動の価値を再確認する機会**になった。

令和5年度

地域資源調査

●札幌シーニックバイウェイエリア全域の資源調査
●1つの資源を、複数の目で見る現地訪問型の調査

マップ作りワークショップの開催

●定例のワークショップで情報をブラッシュアップ
●個別の取組のマップと動画に束ねて魅力を発信

令和6年度

地域資源の撮影

●若い世代の視点で捉える地域の“顔”と“空気感”
●“人”に根差した地域資源・活動情報の収集

各施設の紹介動画制作

●「会いに行きたくなる」発信を重視した動画制作
●活きた地域資源のアーカイブとして機能

①資源の整理　②コンテンツ化　③発信と深化　④波及と循環

令和6年度以降

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	～交通インフラを活かした観光空間づくり～ 地域資源を活用した共創による魅力向上	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	どうなん・追分シーニックバイウェイルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

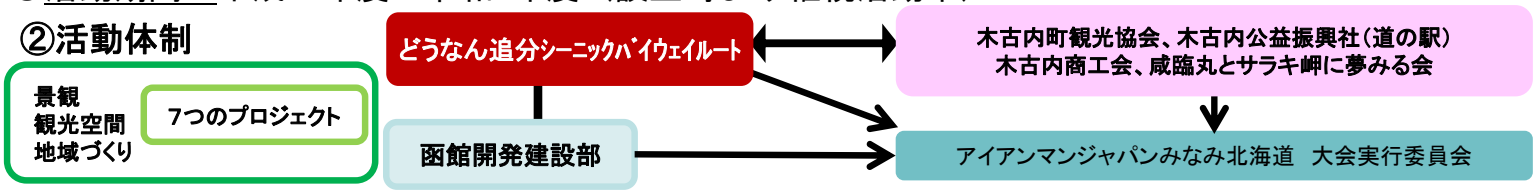
●活動の目的・目標： 2016年に北海道新幹線が開業し、2022年には木古内ICが開通したことにより、木古内の取組を中心とした広域交流の活性化が期待されている。本活動は、地域の歴史や文化伝承、植栽・清掃等の景観活動、サイクルツーリズム推進等とトライアスロンの国際大会「アイアンマンジャパンみなみ北海道大会」と連携した地域創生の取組みを考える勉強会やルート内の魅力的な景観を紹介するパネル展等の開催を通じて、観光空間の魅力を高め、交流人口の拡大を目的としている。

●活動内容：

観光コンシェルジュの配置、木古内町サラキ岬の歴史を紹介する看板の設置：地域の歴史や文化伝承
道の駅連携事業の取組、サイクルツーリズム推進事業の取組：地域活性化活動
木古内町サラキ岬の植栽、清掃活動、チューリップフェアの開催：景観活動
アイアンマンジャパンみなみ北海道大会と連携した勉強会・パネル展の開催：地域づくり活動

●活動期間：平成20年度～令和6年度（設立時より継続活動中）

②活動体制



③ＰＲポイント

【苦労した点や工夫した点】

●アイアンマンジャパンみなみ北海道大会の開催に伴い、ルート内で「アイアンマンジャパンみなみ北海道大会開催における地域創生」と題した勉強会を行い、大会と協働で地域創生の取り組みを考える場を設けた。また、大会の中でフォトパネル展を開催し、地域エリアの広域的なPRを行った。

【活動による効果】

●観光コンシェルジュやサラキ岬などの周辺観光空間の魅力向上の取組みにより、道の駅「みそぎの郷きこない」は道内でも上位ランキング常連の人気の道の駅となった。

●アイアンマンジャパンみなみ北海道大会では3,000人を超える選手・運営スタッフ等、多くの観光客が木古内町を訪れ、フォトパネル展や看板等を通じて地域の魅力を発信し、満足度向上に繋がった。

●交通インフラ整備に対して継続的に行ってきた地域資源を活かした観光空間づくりが実質的に活用され、また、大きく発信できる場となり、一歩一歩準備を重ねてきたことが大会により評価された。

【今後の活動】

●ルートの活動団体それぞれが、互いに連携しながら地域資源を活かした活動を推進し、ルート全体として魅力的な観光空間を発信できるような活動を継続的に工夫を重ね構築していく。

▲道の駅連携事業

▲ｻｲｸﾙﾂｰﾘｽﾞﾑ推進事業

▲木古内町 サラキ岬植栽活動による観光空間づくり

▲歴史・文化継承（コンシェルジュ、看板設置）

▲アイアンマンジャパンみなみ北海道大会と連携した勉強会、パネル展の開催

▲北海道新幹線・高規格道路（交通・道路）資源を活かした「ｱｲｱﾝﾏﾝｼﾞｬﾊﾟﾝみなみ北海道大会（自転車コース）

様式（★指定・候補ルート共通）

活動名称	ひがし北海道の新しい旅のカタチづくり事業	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

・通年でのサイクリングやフットパス等の観光コンテンツの創出・検討

・花咲線や路線バス等の地域公共交通の活用

これらを通じて地域の観光資源を掘り起こし、広域連携による「新しい旅のカタチ」創出を図り、地域活性化を目的とする。

●活動内容：

・観光コンテンツの創出および試行、関係者との意見交換会等の実施

●活動期間：

令和元年度～　フットパスの維持管理、新規フットパスの試行、フットパスを活用したサイクリングの試行　など

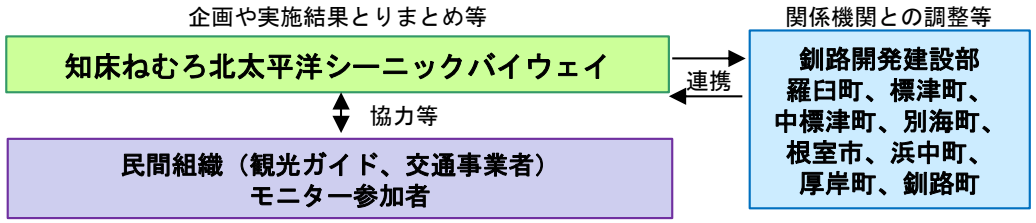
令和6年 6月30日　ねむろエコモビたび

令和6年12月 1日　レンタサイクル・日本本土最東端サイクリング認定証発行事業

令和7年 2月18日　冬季観光コンテンツ造成事業

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等



③ＰＲポイント

【創意工夫した点や苦労した点】

・鉄道や路線バスとの「輪行」がしやすい折りたたみ自転車を活用し、地域の観光資源と連携することで気軽にサイクリングが楽しめる仕組みを検討・試行。

・「本土最東端」というこの地域ならではの特性を活かしたコンテンツを構築。

【活動による効果】

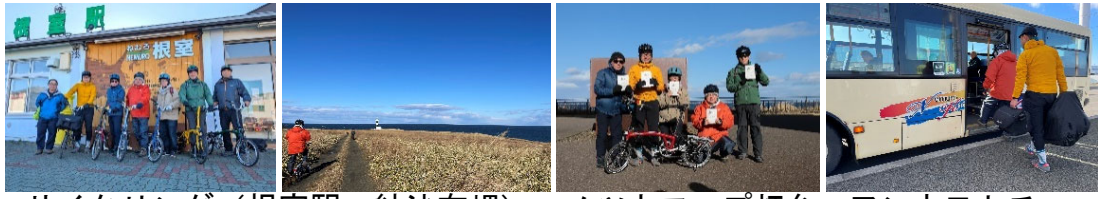
・試行や意見交換会を通して、新たなコンテンツ造成案など、当該エリアの可能性を再認識でき、今後の継続した活動が見込まれる。

【令和6年度の活動概要】

●6月30日　～折りたたみ自転車×根室交通×JR花咲線×手ぶらでキャンプ＝ねむろエコモビたび～

路線バス（根室駅～別海町奥行臼）→サイクリング→手ぶらでキャンプ【昼食：BBQ】→サイクリング→JR花咲線（厚床駅～根室駅）

●12月1日　レンタサイクル・日本本土最東端サイクリング認定証発行事業



サイクリング（根室駅～納沙布岬）→ノツカマップ灯台・ヲンネモトチャシなどに立ち寄り本土最東端納沙布岬へ→路線バス（納沙布岬～根室駅）

●2月18日　冬季観光コンテンツ造成事業

別海町　野付半島サイクリング（根室海峡、野付湾、氷平線、シカなどの野生動物、国後島を眺めながらライド、野付半島ネイチャーセンターで昼食）

標津町　ポー川史跡自然公園スノーシュートレッキング（ポー川、標津湿原、復元された竪穴式住居等の史跡を巡るトレッキング）

様式 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	鵡川沙流川サイクリングコース走行会 with かわたび×日高シーニックバイウェイ	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	日高シーニックバイウェイ		

①活動概要

●活動の目的・目標

・北海道サイクリング協会日高支部日高サイクリング協会（以下、**日高サイクリング協会**）は、日高地域にて、**会員相互の親睦を深め**、**サイクリングの普及啓発**をはかり、**体育文化の向上**に寄与し、何よりも**サイクリングを楽しむ**ことを目的として、令和2（2020）年1月に発足された。

・会員による月1回程度の地元のサイクリングコース走行会のほか、**『かわたびほっかいどう』と連携**し、**日高地域の自然・文化・産業を体感できるサイクリングコースを設定した走行会**（以下、『サイクリングコース走行会withかわたび』）を**計5回行っており**（試走会含む）、**地域の魅力の発信**、**観光振興**や**地域活性化**を目指している。

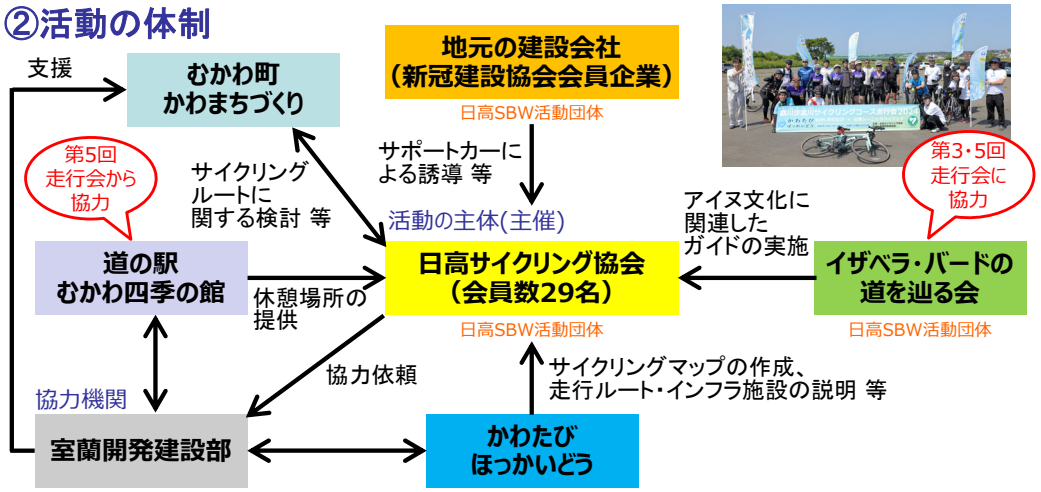
●活動期間・場所

・令和2（2020）年度より、『鵡川』及び『沙流川』を舞台に、河川堤防を活用した『サイクリングコース走行会withかわたび』を実施している。実施概要は以下のとおり。

	開催時期	場所	走行距離	参加者
第1回	令和2(2020)年 8月2日	**沙流川**沿い(日高町・平取町) 富川さるがわせせらぎ公園～二風谷ダム	約20km (片道)	18台
第2回	令和3(2021)年 8月1日	**沙流川**沿い(日高町・平取町) 富川さるがわせせらぎ公園～二風谷ダム	約20km (片道)	23台
第3回	令和4(2022)年 7月31日	**沙流川**沿い(日高町・平取町) 富川さるがわせせらぎ公園～二風谷ダム～平取ダム	約50km (片道)	25台
第4回	令和5(2023)年 9月10日	**鵡川**沿い(むかわ町) たんぽぽ公園～むかわ町立穂別博物館	約40km (片道)	約30名
第5回	令和6(2024)年 7月14日	**鵡川・沙流川**沿い(日高町・平取町・むかわ町) 富川さるがわせせらぎ公園～平取親水公園～ 道の駅むかわ四季の館～富川さるがわせせらぎ公園	約53km (周回)	30名

『鵡川沙流川サイクリングコース走行会 withかわたび×日高シーニックバイウェイ』として実施

②活動の体制



サイクリングマップの作成
［かわたびほっかいどう］

ハンドサインのレクチャー
［日高サイクリング協会］

サポートカーによる誘導
［地元の建設会社］

道の駅むかわ四季の館
での地域産品の購入

インフラ施設の説明
［かわたびほっかいどう］

アイヌ文化に関連したガイド
［イザベラ・バードの道を辿る会］

③PRポイント

●創意工夫した点

・『鵡川』、『沙流川』ともに**河川堤防上を走行するコース**で、一般車両の通行が少なく見通しも良いため**参加者の安全性が高く**、田園風景やトマトのビニールハウス群などの**日高地域らしい景観も存分に楽しめる**コースとした。

・第5回開催を前に、**日高サイクリング協会を中心に各河川コースを結ぶ周回ルートを提案**するとともに、休憩施設として**道の駅への協力を依頼**した。

・**参加者からの意見収集等を通して課題を把握**することで、毎年、**コースの充実を図るための取り組みを継続実施**している。

●活動による効果

・第1～3回は『沙流川沿いルート』、第4回は『鵡川沿いルート』、第5回は各河川ルートをつなぐ**国道等の道路を活用した周回コース**を設定。イザベラ・バードフットパスコースとの重複区間が含まれているため、休憩地点で**日高シーニックバイウェイ活動団体よりアイヌ文化を学ぶ機会を参加者に提供**するとともに、**かわたびほっかいどうによるインフラ施設の説明**を行うことで、**活動団体間の連携強化**、さらに、**地域一体の取り組み**へと発展。

走行会の様子
～河川堤防上を走行